



発行所：ほかにわ共和国  
発行責任者：志賀俊紀  
編集責任者：ほかにわ広報部



# 何があっても変わらないもの

理事長 志賀俊紀

社会・制度・文化の多様性は、その時代を反映して環境が整備されていくが、その中で変えてはならないものは、生きてゆくための理念ではないかと何時も感じている。それは、個人的に輝く生活の確保に大切なキーワードであるからだ。俗に、企業などで困難に直面し仕事に迷



口之津港緑地公園に佇むヴァリニャーノ像

口之津港は 1562 年キリシタン文化の窓口として開かれた。1579 年 7 月 25 日に巡察師ヴァリニャーノが上陸した。その時この街では、少年少女の聖歌隊が、美しいハーモニーでポルトガル人を感動させた。今般ヴァリニャーノを紹介した小冊子が発刊された。実に解り易い内容だ。しかし某有名な先生の記述に誤りがあった。それは、巡察師が 1 回目の来日で織田信長、2 回目の来日で豊臣秀吉に謁見しているが、3 回目の来日では徳川家康に謁見した史実は無く、書簡をもって接近したという史料の検証は必要であろう。ただ謁見は謎だ。とき

私は、須く、事業の展開に遺伝子的要素をイメージするのは学生時代の育種学ねばならない。「共汗共育」を今一度。一九七〇年である。今こそ【原点回帰】せ

「共汗共育」を発信しながら、中村大兄に抜かれたのではないかと反省した。この熟語の発信は八雲寮を開設した。一九七〇年である。今こそ【原点回帰】せ

うと「原点回帰」の戒めの言葉がある。この言葉は事業などを再考する時、キーワードとして用いられている。一九八二年八幡会の三十五周年記念の時に、私が敬慕している古野清賢翁が、「志賀さん、企業で大切なのは、ミッション、ビジョン、パッションですね。」と、喝破されたことを思い出す。今や古野電気は「世界のフルノ」として成長を遂げているが、その進化の中には、企業家の熱い想があった。フルノは戦後間もなく口之津港の一角に漁船中心の電気工事店だった。フルノの創業者は兄弟のコンビであるが、実父は私の父と同じく小学校教員であった。父が言うには、「理科が得意で、息子さんもその遺伝子があった。」と話していたこと思い出す。



2023/01/21 中村隆重さんを中心に自宅の「哲学の庭」で記念撮影

が心のどこかにあるのではないかと思っている。ある時古野翁が、自分に迷いが有ったら、【原点回帰】の言葉を肝に銘じていると諭された。そこには、無くしてはならないこと信念が潜んでいることへの警鐘であったと思う。そうした側面から知的障害者施設にあって、成功した人を紹介してみたい。

日本福祉施設士会の二期生で意気投合し、私の「共汗共育」に共感され、そのキーワードを施設経営に実践された白鳩会前理事長の中村隆重さんである。中村さんは私より六歳年上の薩摩隼人である。本年の一月、地域再生大賞受賞を記念して自宅に参集していただきたいと一冊の本「ジャルダンの大地・夢のソーシャルファーム花の木農場」が送られてきた。本の裏表紙に「共汗共育」と中村さんの署名があった。そして中村さんからのメッセージが添えてあった。「前略、貴兄から教え

## 地域から見たほかにわ共和国

ほかにわ共和国の本部がある南島原市加津佐町権田地区の自治会長 岩永明夫さんに話を伺いました。

ほかにわ共和国についてどのような印象がありますか？

長年、地区の祭りや除草作業等の自治会活動に協力を頂いており、地域に溶け込んでいると思います。

ほかにわ共和国は、地域でどのような役割を果たしていると思いますか？

地区の住民が年々高齢化していく中で、利用者や職員の方々の若い力が自治会活動の維持や防災・防犯につながっていると思います。

ほかにわ共和国に今後、どのようなことを期待しますか？

これからもいろいろな自治会活動に参加して、地区の活動を盛り上げて欲しいです。



7月の権田地区除草作業の様子



# 特集

## 福祉従事者への

### 情熱へ期待

ワークネットやはた

施設長 原田 秀範

障害者の「幸福」は、何と言っても福祉施策の「なかみ」と福祉従事者の「こころ」によるこの二点による所が大きいと考えます。

福祉は人であり心であることは百も承知ではありますが、人間そこが難しい。他人は見ても己は見えない、自己欲己第一主義者、これらもろもろ。だから虐待、偏見、差別といったことが未だマスコミの話題で尽きない現状であります。

では、ここをどう変える？うーむ・・・答えが見つからない。性善説に立ち返ったところでは解らない。諸葛孔明曰く、「無欲でなければ志は立たず、穏やかでなければ道は遠い」こんな真の志こそ世のため人の為なのでありましようが・・・。

共生社会の実現においては今なお道半ばというよりスタートラインにやっと立てた程度かとおもえます。とはいえ、当法人の今後を見据え、社会福祉法人の原点である地域貢献、また、障害福祉サービス発展に寄与し、利用者、またはそのご家族等を第一に考え、志も持って入職してきた熱き職員らと、明るい活気ある職場においてより良い障害者福祉業務を追求し遂行しているところであります。

### 令和4年度 決算報告

【社会福祉法人ほかにわ共和国】



【資金収支計算書の要旨】		【事業活動計算書の要旨】		【貸借対照表の要旨】	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
事業活動収入	556,780	サービス活動収益	549,711	資産の部	
事業活動支出	519,247	サービス活動費用	537,710	流動資産	633,736
事業活動資金収支差額	37,533	サービス活動増減差額	12,001	固定資産	675,427
施設整備等収入	2,610	サービス活動外収益	7,069	(基本財産)	488,092
施設整備等支出	40,596	サービス活動外費用	8,628	(その他の固定資産)	187,335
施設整備等資金収支差額	△ 37,986	サービス活動外増減差額	△ 1,559	資産の部合計	1,309,163
その他の活動収入	5,000	経常増減差額	10,442	負債の部	
その他の活動支出	0	特別収益	2,710	流動負債	52,990
その他の活動資金収支差額	5,000	特別費用	3,227	固定負債	70,656
予備費支出	0	特別増減差額	△ 517	負債の部合計	123,646
当期資金収支差額合計	4,547	当期活動増減差額	9,925	純資産の部	
前期末支払資金残高	603,926	前期繰越活動増減差額	926,595	基本金	5,559
当期末支払資金残高	608,473	当期末繰越活動増減差額	936,520	国庫補助金等特別積立	115,938
		基本金取崩額	0	その他の積立金	122,500
		その他の積立金取崩額	5,000	次期繰越活動増減差額	941,520
		その他の積立金積立額	0	純資産の部合計	1,185,517
		次期繰越活動増減差額	941,520	負債及び純資産の部合計	1,309,163

## 私が働く理由

私が働くきっかけは、大学三年時の障害者施設での実習です。知的障害者の就労支援施設で大変衝撃を受けた記憶があります。

その頃は私自身、障害を持った方と接する機会はほとんどなく、正直なんとなく「怖い」イメージをもっていました。

実習では一日を通して作業を行い、一人一人が役割を持ち、職員と利用者との関係性や、利用者同士の関わりを間近で感じ、障害者へのイメージが大きく変わった事を覚えています。今でもその施設の方は、交流活動の場で顔を合わせると手を振ってくれます。

## ほかにわ共和国の動き

- 6月24日 理事会役員改選
- 8月7日 ほかにわコンサート
- 8月 夏祭り 各事業所毎で実施
- 9月中頃 理事会
- 10月8日 ほかにわ運動会
- 11月11日 ほかにわ神社祭

## 売りたいか。なう@

もうすぐ、お盆を迎えようとしています。この時期、特に依頼が多いのが自宅庭の剪定や敷地内の除草作業です。機械で大きな箇所を担当する方、カマで細かな箇所を担当する方、除草後の片付けから清掃までを担当する方と、それぞれが役割分担することで、効率よく業務に取り組んで依頼に応えています。

除草作業や自宅でのお困りごとなど、皆様のご依頼をお待ちしています。

コミュニティーほかにわ (環境班)

TEL 0957-87-5830



## MVフィルム・MVコレクション

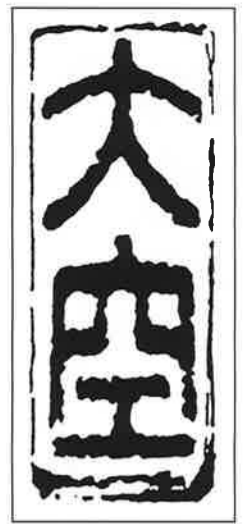
学生の頃から読書やマンガを読むことが好きで、運動部にも所属し毎日練習に追われ、休みの日は友人と釣りに行き、「本が好きだ」ということを忘れない程度に色々読み漁っています。中でも今はファンタジー系が好きで「ゼロ」という本は小説ですが二十冊を超えてしまいましたが、しかもキャラクターのグッズやフィギュアまで集めだす始末。何かに没頭したら夢中になってしまい現実逃避出来ることで気分転換になっていると思います。これからも忘れない程度にハマって読んでいきたいと思っています。



(悠炉里 加藤 信行)

(主任 松尾 浩道)





### 晴天日和の収穫祭

今年も、例年よりも早く梅雨入りとなり前日に雨が降り、天気が心配でしたが、当日は晴天の中、八雲寮・デイ雲合同で収穫祭を開催。今年収穫したじゃがいも、たまねぎを使用し、カレーライス、コロッケなどが振舞われました。熱々の料理とビールを飲食しながら「美味しい」といった声が聞こえ、食事を楽しんでいる様子が伺えました。お腹が満たされた頃にステージイベントにて余興を行いました。昨年好評であった野菜キロ当てゲームを八雲寮・デイ雲対抗で競いました。指定の重さに近く入れるにはなかなか難しく、利用者の皆さんは苦戦している様子でした。

コロナ禍によりイベント等が縮小されていましたが、新型コロナウイルスが五類へ移行になったことにより、今年は皆さんが楽しみにしていたカラオケを取り入れられました。自慢の歌声を披露し、会場では歓声が上がリ、盛り上がっていました。



### 「食」の大切さ！

4月下旬から厨房床の張り替えと食堂の改修工事が行われました。工事期間中は厨房が使用できなかつた為、折り箱での食事となり地元の惣菜を注文し、ご飯と汁物は食堂で準備しました。揚げ物中心のメニューになりましたが、利用者の皆さんは笑顔で「美味しいよ」と声をかけてくれました。夕食はカレーや丼類などを食堂で作り、普段とは雰囲気が変わり、ちょっとしたキャンプ気分を味わえたのではないのでしょうか。2週間の間、利用者・職員の方にはご迷惑をおかけしましたが、新しい厨房床と食堂で気持ち良く食事ができるようになりました。今後も健康に配慮した食事作りをスタッフ一同励んで



折り箱での食事の様子

いきたいと思います。(栄養士 高橋亮子)

また、四月より二名の職員が千代垣荘へ仲間入りしました。職員数が増えた事により今後は、色々な活動に幅が出てくると思えます。五月八日にコロナが五類へと引き下げられた事で今後の千代垣荘の活動が非常に楽しみになってきました。利用者の皆さんに様々なことを楽しんでもらえるように知恵を出し合って頑張っていきたいと思えます。(主任 中村要平)



ジャガ掘りの様子



キロ当てゲームの様子



カラオケの様子

これからも利用者の皆さんが楽しんで頂けるように行事を工夫しながら取り組んでいきたいと思えます。(酒井敬一)

### 障害者支援施設 八雲寮広報部



#### 今後の行事

8月  
夕涼み会  
音楽祭  
小G活動

9月  
お月見会

### new face ~職員紹介~



統括 中村久人



統括 白倉和裕



主任 山本智恵美



世話人  
綾部三美子



生活支援員  
田栗ひろ子

千代垣荘職員 (下段)

### 収穫がんばりました！

令和五年度が始まり、早いもので四ヶ月。年が明けた一月に植え付けしていたじゃがいもを休みの日に皆で収穫したり、楽しい日々を過ごしています。

通所事業所より四月から赴任し、八雲寮に勤務して四ヶ月が過ぎ、日々支援にあたり人と心を繋ぐ支援のあり方の難しさ、また、昼夜における支援者のマンパワー不足を痛感する。利用者平均年齢五十八と高齢化率も進み介護者も多く、日常的に出ていたことが出来なくなってきた。日々の日課や活動内容を整理し、見直さなければならぬ。その一つにリハビリ訓練を必要とされる利用者様も増え、六月より作業療法士の指導を受け機能訓練を実施している。

コロナも五類となり活動や地域との交流事業も増えてきている中、感染対策をしながら本来の八雲寮の理念でもある「共汗共育」の活動が出来るよう邁進して行きます。(統括 中村久人)

### がんばらば宣言

今回ご紹介するのは・・・？



吉原祥兵さん

アニメのテレビ番組が大好きです。毎日NHKのアニメ番組を見ています。

### じゃがいも雑感！



# しゅんじゆん

7月号 No.210

## 大迫力のサーカスに歓声

### 令和五年度 日帰り旅行



コロナも収束に向かい予定通りに行くことが出来た今年の日帰り旅行。今回は大村市で開催された「ワールドドリームサーカス」の観覧へ出かけました。本格的なサーカスをなかなか見ることがない事もあり、行事の間近になると皆さん「いつ行くの?」「お小遣いは?」と楽しみな会話が聞かれています。もちろん、当日のバスの中でも話題が尽きずわいわいと賑やかでした。



ランチを済ませ、いざ会場へ入ると暗闇のテントの中何が起きるか分からない状況。皆さん大変ワクワクされていました。

時間になると照明が一気に明るくなり、ピエロが登場。観客も巻き込んで面白おかしく振舞うピエロに、利用者さんも手を叩いて大爆笑でした。

笑いばかりではなく、客席間近での火吹き、バイクのアクロバットショーなどアツと驚く演出もありました。

最後はサーカスで定番の空中ブランコで観客を沸かせてくれました。演技が終わるたび利用者の皆さんは拍手したり手を振ったりとサーカスを盛り上げられていました。あつという間の時間でしたが楽しく驚きもあつて、貴重な体験が出来た日帰り旅行になりました。

副主任 高松 豊

## 雲仙災害記念館見学

6月22日、2ホーム合同で島原方面へ外出し、雲仙災害記念館（がまだすドーム）の見学を行いました。約30年前の噴火災害の映像や展示物を見て、当時のことを思い出されていた利用者の方もいました。

身近にあるため深く考えることが少ない雲仙や普賢岳について、改めて見つけ直すきっかけができました。

(小山泰彦)



## 寅さんに笑いと感動～上映会～

6月16日、デイ雲2階にて上映会を行いました。事前に候補として「男はつらいよ」「美女と野獣」「ゲド戦記」3作品からどれを見たいかアンケートを取り、1番人気の「男はつらいよ」を上映。

皆さん懐かしいのか熱心に見ていて、時には大笑いになる一幕も。途中、おやつ休憩を取りその後も最後まで映画を鑑賞しました。上映後は「昔テレビでよく見たねえ」「おもしろかったね」などの感想が聞け、利用者さんにとって楽しいひと時になったようでした。

(熊本吉恵)



## 新しくなった食堂で「いただきます！」

毎日昼食でお世話になっている八雲寮の食堂が5月に新しくなりました。これまでは一段高くなった畳のスペースでしたが、昇り降りを負担に感じる方や車いす利用の方が多くなってきたこともあり、座って食事ができるようにリフォームがされました。皆さん、ピカピカのテーブルと椅子にいつもより食事も美味しく感じられたようです。

(小山泰彦)



門下友子さんはワークネットの利用を終了し、四月からデイ雲の利用を開始されました。

機能訓練班で紙袋を作る作業などを行っています。これからがんばります。



## 雲と虹

梅雨の時期ではありませんが、連日暑い日が続いています。近年では五月頃から三十九度近くの気温となる日もあり、いつからが夏なのだろうかと思う日々です。

新型コロナウイルス感染症も五類となり、マスク着用や様々な規制の緩和などが見られています。ただし五類になったとはいえ、福祉施設では感染対策を怠ることもできないのが現状です。

利用者の皆さんは、ここ数年自粛してきた外出行事に期待し、楽しみにされている方も多いようです。

これまで実施してきた感染対策のノウハウを活かしつつ、皆さんの期待に応えられるよう行事を計画していきたいと考えています。

統括 福田 亮

## 行事予定 8・9月

- ・小グループ活動
- ・手作り昼食
- ・納涼祭

※状況により延期・中止になる場合があります。

# 悠炉里

人と人、あらゆる出会い

悠炉里施設長 志賀常盤

共同生活援助事業所  
(介護サービス包括型)  
悠炉里広報誌



7月号

## スポットライト



内堀留美さん

誰でも気さくに話してくれる内堀さん。休みの日には、得意のピアノをみんなに披露してくれます。普段は、ワークで箱折りの仕事を頑張っています。「健康第一」を目標にこれからも笑顔で頑張りますよ。(安藤)

## つづいて

コロナウイルスの流行で余暇の過ごし方が大きく変わって三年程過ぎました。その間、悠炉里では余暇支援としてホーム活動を中心にグラウンドゴルフ、夏祭り、おやつ作り等を行い、利用者の方達が、気分転換が出来る取り組みを行ってききました。

五月末、約二年ぶりに東京出張が入った。コロナ禍での業務としてオンライン会議が主であり、いざ出張となると正直気が滅入った。というのも、リアルタイムに全国各地の方々と繋がりがつつ、日常業務への支障もない日々慣れきっていた。

日常的にオンラインを通じて交流している事で、対面時はより親近感が湧いたのである。今となってはどちらも欠いてはならないビジネスモデルと考えつつ帰路についた。

## ホーム活動

機内に幼い姉妹が母親と搭乗していた。子供は興味津々で周りの乗客を見てはニコニコ微笑んでいる。今までと全然変わらぬ光景なはずなのに、どこか懐かしい思いと、心む出合いに嬉しくなった。



ストライク 取ったぞー!!

## 紫雲荘

六月のホーム活動で島原へボウリングに出かけました。五月二十八日の障害者スポーツ大会では緊張して上手く出来なかつたが、ホーム活動では気の合った仲間と楽しくでき、スコアも全員が前回を上回り職員が負けるゲームもあり大いに盛り上がりました。

## 湧雲荘

誕生者外食として、みんなの憧れ☆焼き肉キングへ出掛けました。普段なかなか出来ない焼き肉に、みんな集中！ひたすらお肉を頬張っていました！みんなお肉が大好きです(笑)



焼肉キング(諫早)にて

次は誰の誕生会かな？今度も美味しい物を食べに行きましょうね！お誕生日おめでとうございます！(大平)



日本福祉施設士会 九州・沖縄ブロック代議員 ~杜垣荘~

高齢者が多く介護度の高い杜垣荘。普段の休みの日の昼食はお弁当が多いのですが、日曜日に珍しく外出しました。この日は夏日、行き先は…ソーメン流し！食欲がなくなってくる夏にも何故か麺類はツルツル入るのでいくらでも食べられます(笑) 皆さんも、笑顔ですすっていました！食事はおいしいのが一番ですね。(史子)



千々石観光センターにて



(宮崎鉄夫さん)

リハビリを頑張っ て、だいぶ足も動く ようになりました。 目標は一人暮らし です！まだまだ頑 張ります！

## New Face



福祉の仕事は初めてですが、コミュニケーションと笑顔で失敗を恐れず頑張ります。

(世話人 田栗源吾さん)

悠炉里では、今年度より小グループ活動が再開します。利用者の方からは、買い物や遊園地に行きたいと、楽しみにしている声が聞こえており、改めて利用者の楽しみや幸せについて考え、取り組んでいきたいと感じています。

(副主任 井上 翼)



# 我ち愛

## ウイスクロナで楽しんだ

・ ゆうあいスポーツ大会 ・

コロナの影響で中止になっていた「ゆうあいスポーツ大会」が四年振りに開催されました。競技直前には「緊張してきた」「ちゃんとできるかな」という声も聞こえてきましたが、いざ競技が始まると、皆さん笑顔で一生懸命に競技に参加されていました。

リレーでは一人転んでしまい、惜しくも二位という結果でしたが、転んだ相手に対して、励ましあう姿もあり、成長を感じ取れた一面も見ることができました。

競技の間には、他事業所の利用者、職員との交流もあり、競技だけでなく、人との関わり合う大切さも実感した大会でした。

半日開催ではありませんでしたが、皆さんの笑顔に癒され、帰りのバスでは、早速来年に向けての意気込みも聞こえてきました。また明日から仕事も行事もフアイトを燃やして気合いを入れて行きましょう。

(古賀清美)



「力を合わせて」鈴割り競技



## やはた共育大学通信

目標に向かって

※やはた共育大学三年生の山下優大さんに抱負を伺いました。

Q 作業での目標はなんですか？

A 集中力をつけて、できることをたくさん増やし、諦めずに取り組めます。

Q 将来の目標は何ですか？

A 就職して母に親孝行したいです。



作業訓練のひとつ

## 作り手の思い

「ただいま」と利用者が戻ってこられます。「お帰りなさい。お疲れ様」と温かい雰囲気迎え、リラックスして食事を楽しみ「昼からも頑張ろう」と、思っ頂ける様な食事のひとつでありたいと考えています。

安全で安心して食べられる様に衛生管理を徹底し、皆様のご意見、ご要望を取り入れ、喜んで頂ける食事サービスを目指しています。食事を楽しみに事業所を利用して頂けたら嬉しいなと思います。

(久保友美)

## 大好きなメニュー

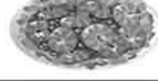
1位 唐揚げ



2位 ラーメン



3位 エビチリ



本日、トルコライス  
いただきます！



(大村圭子)

## 散歩道

日常生活の中で、子供たちによく挨拶される事があります。中には面識のない子供もいます。「おはようございます」「ありがとうございます」「お疲れ様です」シーンはさまざまですが、気持ちの良い挨拶で、挨拶された私も自然に笑顔で挨拶を返します。一日の始まりは、挨拶からと言いますが、ただ挨拶するのではなく伝わる挨拶、心がけたいものです。

(林田まゆみ)



## ワークネットやはたこの人

今回は 園田恵里さんです



Q) 好きな食べ物はありますか？

「ハンバーグが大好きです」

Q) 趣味はなんですか？

「ぬり絵です」

Q) ご自宅ではどんなふうに過ごしていますか？

「掃除や片付けしたり、好きな嵐やスマップの曲を聴いています。」

●ワークでは、被服班でたたみの作業を担当されています。恵里さん自分のペースでゆっくり頑張ってください。これからも、笑顔を絶やさず通って来てくださいね。



石川智広画伯作  
『島鉄バス』



### 職員融和の大切さ

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

「華椿会」は、ほかにわ共和国に勤務する職員を会員として組織した互助会で、会員から会長をはじめとする役員を選出し、会員の会費が会の主となる経費です。

コロナ禍によって令和二年度から、レクリエーションや奉仕作業などの集合行事が完全に中止され、収支報告や予算案等の決議も書面による方法がとられました。

会の目的のひとつにある「相互の融和」の機会は、断たれ、慶弔に関する相互扶助が肅々と進められていました。

例年四月に開催するミニバレー大会が、ようやく六月に惟神記念館で三年ぶりに開催されたレク行事でした。職員によっては入職後初めての参加となった職員もおり、途中で採用された見慣れぬ職員の多さに三年のブランクが長かったと感じました。

コロナ感染症が二類相当から五類感染症に移行しても施設の衛生対策やクラスター時の対応に変わりはないのですが、この集まりが、大切な行事となったと職員表情から感じ、今後の活動に期待したいと思えます。



選手宣誓をする職員はみんな初参加です

### ようこそ 柿の木へ☆



増永心彩さん(上)  
結愛さん(左)雅生空くん(右)  
3姉弟です。面倒見が良いお姉ちゃんと甘え上手な弟くんです

新しいお友達が増え、さらに賑やかになった放課後等デイサービスは、年齢も個性も幅が広がり、私たちの腕が試されているのは、前号に書いた通りで、日々が試行錯誤の連続です。



日本大和くん  
洗車中に運転席で大興奮



古賀ひかりさん  
お絵描きが得意♪

(恵理)

### 7月7日晴れ

七月七日を前に、みんなで七夕飾りを行いました。みなさんがどんな願い事を書いているのか、私も楽しみにしていました。短冊には、「みんなと仲良くしたい」「絵が上手になりたい」など様々な願い事が書かれていました。



### お菓子だって手作り

螢雲荘の六名が、「お菓子」作りに挑戦しました。まずは、六種類の知育菓子を選ぶことから始めました。「知育菓子」とは、ケーキやたい焼き、お寿司等を作る実験みたいなお菓子がセットで販売されています。粉末に水を入れて、混ぜて終わり。と、思ったら大間違いで、「こねる」「伸ばす」「成型」



(森内)

それぞれが持つ「強み」を活かせる環境作りが果たして出ているのか、それはまだまだ発展途上ですが、まずは一緒に過ごせる時間の中で、どれだけ相手のことを知ることが出来るか、ということをお互いに大切にしたいと思えます。

### 自分の知識を高めるために

今回の職員研修は、昨年度のQC活動の中で用いた職場の理解度チェックを基に、法人内の仕組みの理解や、福祉の専門性を高める内容としました。また、日中系と宿泊系それぞれの職員業務を、双方の職員が知ることができる内容も行いました。研修を活かして、よりよい支援ができればと思います。また、参加者は参加できなかった職員に伝える方もつけねばと思います。



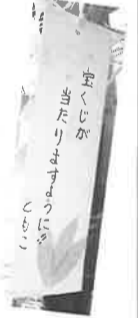
講師も職員、相乗効果を狙います

(松永)

「よしっ」決意し、私も通院しました。少しだけ身体に気になることがあり、通院することでそれがなにかわかり、とても安心することができました。やはり放置はダメですね。私が、何科に罹ったのかは、ご想像にお任せします。(恵理)

中には、「好きな芸能人がもつとテレビにでますように」と、かわいらしい願い事もあり、みなさんもそれぞれいろんな思いがあるんだなあっと感じました。

飾りつけがきれいにでき上がり、笑顔で眺めたまみなさんの願い事が無事に届いて叶いますようにと思います。(山下)



### 言の葉

### 8月の行事

- 2日 誕生会
- 11日 柿の木夏祭り※
- 22日 児童外出※
- 23日 河川アダプト
- 28日 市民プール※

※印は参加費あり



## 郷土の偉人、永野萬蔵(2)

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

### 2. 旅立ち

萬蔵は19歳の時に水夫として雇われ、上海通いのイギリス船アーガス号に乗り込むことになった。水夫といっても、アーガス号は東南アジア航路の船であり、萬蔵は船底での釜焚きの補助人夫だった。気温40度以上の中での汗だくの労働であっただろうことは、想像に難くない。それでも萬蔵にとって、飯を腹いっぱい食って1日に50銭もらえたとし、口之津での「重労働に比べると、退屈するほど暇」だった。



明治時代の口之津港



大型船に石炭を積み込む人夫たち

1874年、秋の彼岸の頃、アーガス号は上海へ向けて出航した。船は上海から香港、タイ、セイロン（現在のスリランカ）を経て東インド会社のあるインドへ着いたのだが、その間萬蔵の目に映ったのは、光と影に満ちた新世界であった。香港では何十隻もの巨大な船や戦艦、さまざまな肌色の、特に真っ黒な肌色をした人間たちを見て仰天した。インドでは、裸の女性たちが売られてゆくという痛ましい光景を目の当たりにした。こうした航海を続けていくうちに3年近くの歳月が流れた。船長からカナダ行きを告げられたのは、その頃である。

### 3. 北米カナダへ

アーガス号は、日本における燃料補給地の1つであった口之津で14トンの石炭を積み込み、横浜で食料品を調達した後、出航した。船はおよそ1か月後に、カナダ、ブリテッシュ・コロンビア州の港町ビクトリアに寄港した。1877年（明治10年）で、萬蔵が22歳だった時のことである。1877年といえば、日本では激動の時代に当たり、西郷隆盛が西南の役で非業の死を遂げた年である。一方のカナダでは、クーリー（苦力）と称される中国系の人々の低賃金での労働力を必要としながらも、彼らを（全体的にみれば、アジア系の人々も）差別していた頃であった。

アーガス号は、ヴィクトリア港に1日停泊した後、バンクーバーのバラード湾を突き切って、同湾に注ぎ込む雄大な流れのフレイザー河を約5キロ上流にさかのぼり、州都のニューウェストミンスターに着いた。そこで萬蔵は、クーリーたちに混じって脱船、つまり密入国したのである。

(つづく)

## フラットとしき

マイフレンズ素晴らしき友よ



茨城大学農学部育種学研究室初代教授の島津齊徳先生が49歳で逝去されてから今年の一月で55年を迎えた。一月に鹿児島島に出張があり島津家の奥津城に参拝できた。お墓は、県立玉龍高校に隣接する森の中にあった。鹿児島で島津といえば、超高貴な一族である。先生は心筋梗塞で突然死であった。私は偶然に上京して、親族のみの密葬に立ち会うことが出来た。昭和天皇からの生花が印象的だった。遺児

に有られた高柳保徳さんは、当時大阪大学の二年生だったと記憶している。今回同窓会に奈良から遠路ご臨席頂いた。凛々しい学研肌は父君齊徳先生を彷彿させた。歳月が流れ、島津先生を超える程の研究者になられていた。これまで、育種学研究の卒業生は二百五十人程度であるらしいが、同窓会が終了してお願いしていた卒論の研究テーマなどが集まってきている。それらを俯瞰すると、青春時代に実験などで苦労した裏面が見え隠れする。しかも育種学の実験と研究は、地道な汗と涙の結晶の側面も見逃せない。それは、先輩の記録の上に自分を重ね、後輩に託して進められるからである。

積もる話・夢への挑戦・温めた友情 話によると、多くの大学の研究室がその研究の内容の変化と進化の中で、昔の名前で出ているのは「茨大育種」位だろうと誰かが指摘していた。 学で研究され、鳥取大学が最後の職場でした。という話でした。写真に納まったのは予定より



前列椅子—西連寺・志賀・柳沢・久保山・丹羽・児玉—敬称略

瞬間だった。 としき

私、放射線育種研究の最初の生徒であるが常陸大子の中に巨大な半径二百メートルのコバルト放射線研究圃場を見学したことが思い出される。 さて今回の出席者38人同窓会といっても、お互いに面識があるのは、上下五歳ぐらいであろう。それにしても話は盛り上がった。それは研究が貫かれた側面を持つ研究であったからだろう。私に唯一面識あったのは、合気道と弓道の主将をされていた西連寺剛氏がいた。西連寺先輩が事務局に「霞月楼での開催のバランスがつかない加へど心が動ききました。発起人として志賀俊紀(42卒)さん、私に一年下に、志賀君という空手部の凛々しい主将がおられました。その人と思います」とあった。お目にかかりお話を伺うと、「西連寺先輩は、東大の大学院で博士を取得して、しばらく日本で研究し、アメリカのマサチューセッツ大学で研究され、鳥取大学が最後の職場でした。」

再開を期待し土浦駅へ 次回に繋げる同窓会の環境はできたのか。それが課題であろうと我々は懐かしい土浦駅へ歩きました。誰彼となく、二次会の雰囲気だった。私と藤本君と

西連寺先輩のグループ。後輩で大学の先生をしている七名のグループが暖簾を押しした。まずはビールで乾杯だ。先輩・同輩・後輩の心は一つになった瞬間だった。 としき